

2012年度 OD Network Japan 年次大会



大会プログラム

2012年 大会テーマ

「組織開発の可能性」

日程：2012年6月3日（日）9：30～18：00

会場：東京ファッションタウンビル9階 会議室・研修室



OD Network Japan

組織開発による実践と学習のコミュニティ



2012年度 ODネットワーク・ジャパン 年次大会

【大会日程】

2012年6月3日（日）

TFT（東京ファッションタウンビル東館9階）

	9-A	901	902	904
9:00~	受付（会議室9-Aの前：受付は9:00に開始します）			
9:30~ 9:50	受付 （会議室9-Aの前）	ODNJ 総会 （会員のみ）		
	受付（会議室9-Aの前）			
10:00~ 10:20	開会 ・主催者あいさつ ・発表・WSの紹介			
10:20~ 12:00	基調講演 「組織開発において組織文化を捉える」 金井壽宏氏 （神戸大学）			
	昼食（東館2階と1階のレストラン・コンビニをご利用ください）			
13:00~ 14:15	発表1 「チェンジ・マネジメントとしてのサーベイ・フィードバック実施のポイント」	発表2 「タレントマネジメントに関する米国の潮流と日本における現状と見通し」	発表3 「ポジティブ心理学を活用したリーダー行動変革とメンバーへの影響」	発表4 「プロセスデザインの基本の「き」は、「聴く」ことにあり」
	休憩・移動			
14:30~ 16:45	ワークショップ1 「組織開発の特徴と可能性」	ワークショップ2 「国際カンファレンスにおけるネットワークスキル」	ワークショップ3 「先進企業内事例からみる組織開発の現実」	ワークショップ4 「ワールドワーカー組織的課題の盲点を探り、敷居を越える」
	休憩・移動			
17:00~ 18:00	全体セッション 閉会			

2012年度 ODネットワーク・ジャパン 年次大会

【大会会場】

TFT（東京ファッションタウンビル東館9階）

〒135-8071 東京都江東区有明 3-6-11

【交通案内】

TFTのWebページ（<http://www.tokyo-bigsight.co.jp/tft/access/index.html>）をご参照ください。

<りんかい線>国際展示場駅（下車徒歩約5分）

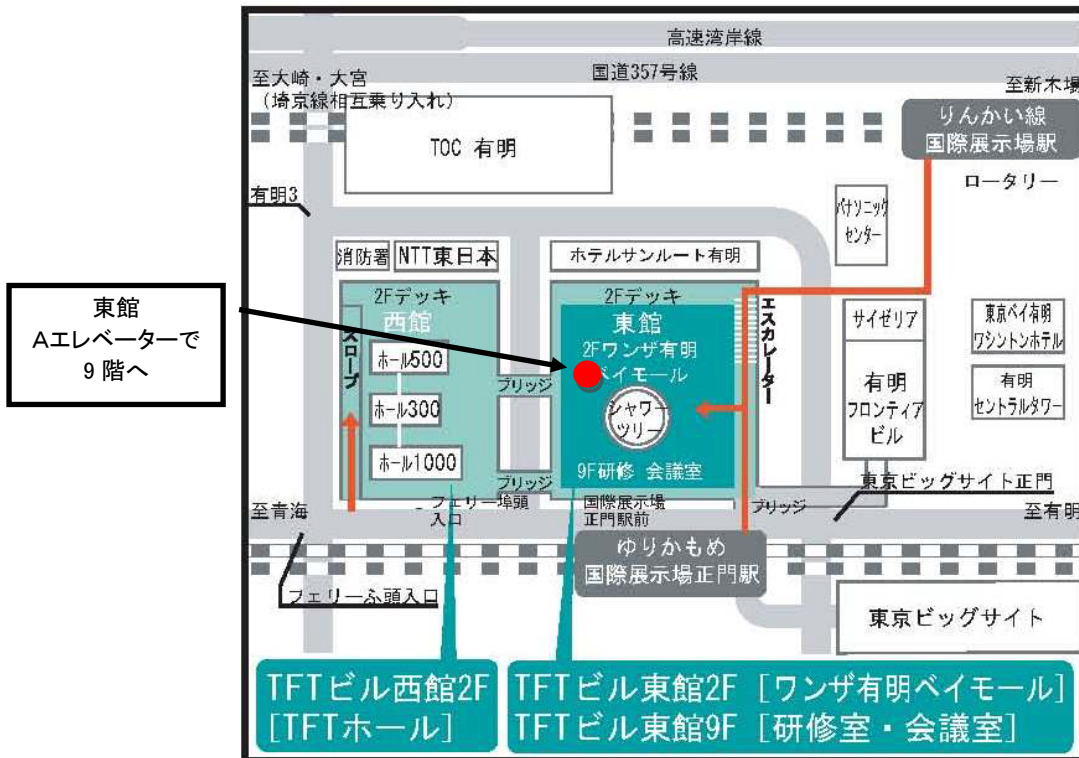
大崎（JR） ←13分→ 国際展示場 ←5分→ 新木場（JR、東京メトロ）

<ゆりかもめ>国際展示場正門駅（下車徒歩約1分）

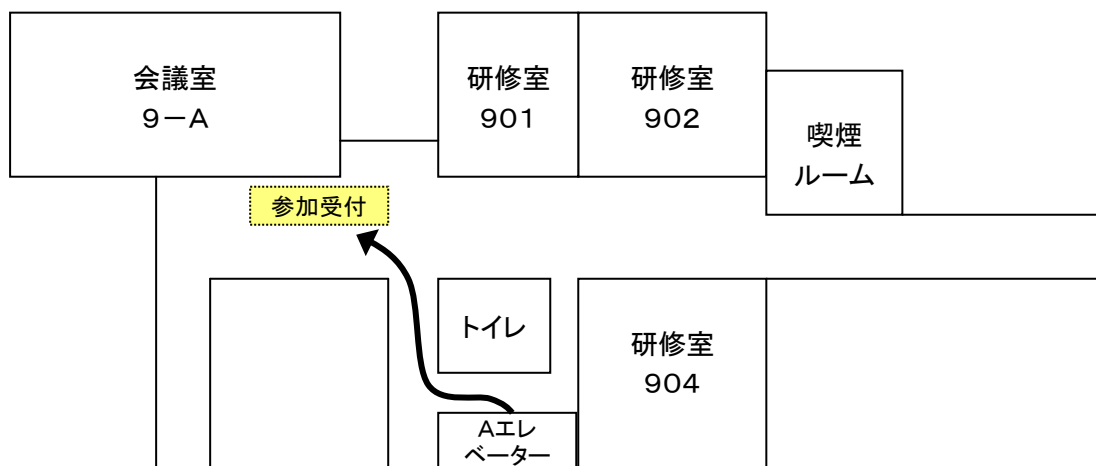
新橋（JR、東京メトロ、都営地下鉄） ←22分→ 国際展示場正門

豊洲（東京メトロ） ←8分→ 国際展示場正門

【駅から会場までの経路】



【TFT 東館9階：会場案内】



大会参加者へのご案内

1. 受付 6月3日(日) 9:00~受付(TFT 東館9階の会議室9-Aの前)を開始します。

予約参加: ODネットワーク・ジャパンのweb ページ (<http://www.odnj.org/>) から5月17日(木)までに予約参加申し込みをしてください。事務局より振り込み先をメールにてお知らせしますので、大会参加費を5月21日(月)までにお振り込みください。振り込み手数料はご負担願います。大会当日は受付「予約参加受付ブース」にお越しいただき、名札と大会プログラムをお受け取りください。

※期限の5月21日までにお振り込みいただけなかった場合、当日参加の扱いとなります。

※キャンセル・ポリシー: 事前にお振込みいただきました参加費は、5月25日(金)までに事務局に連絡をいただいた場合、手数料500円を差し引いた額を返金いたします。それ以降のキャンセルは返金できませんので、予めご了承ください。

当日参加: 大会当日に受付の「当日参加受付ブース」にお越しいただき、参加費(当日)を支払い、名札と大会プログラムをお受け取りください。

2. 参加費	ODNJ 会員:	予約参加 5,000 円	当日参加 6,000 円
	一般(非会員):	予約参加 10,000 円	当日参加 12,000 円
	一般(学生の方):	予約参加 5,000 円	当日参加 6,000 円

※会員であり、学生の方で、大会当日にお手伝いをいただける方は、参加費が割引されます。事前に運営委員会事務局までお尋ねください。

※大会前にODネットワーク・ジャパンの会員になることを希望される方は、web ページ (http://www.odnj.org/?page_id=618) からお申し込みください。

※非会員の方で、予約参加での会員参加費(5,000円)の適用を希望される場合は5月21日(月)までに入会の手続きと入会金・年会費の振り込みを完了させてください。

※当日参加の方に限り、会場にてODネットワーク・ジャパンの会員になることが可能です。その場合は、入会金5,000円と2013年度の年会費10,000円(2012年度の年会費は無料)の計15,000円を大会当日にODネットワーク・ジャパン事務局受付にてお支払いください。

3. 発表セッション 座長のもとで進行がなされます。45分間の発表と30分間の質疑応答(全体でのディスカッション)から構成されます。発表者の方は発表時間をお守りください。

4. ワークショップ 事前申し込みは不要です。各セッションの会場に直接お越しください。

5. 昼食 TFT 東館1階と2階のレストランやコンビニエンス・ストアが営業しています。

6. その他
- ・ご協賛いただいた企業・団体様の展示・販売のブースを会議室9-Aに設置します。昼休みや休憩時間などにご利用ください。
 - ・大会会場は禁煙です。喫煙は指定された場所にてお願いします。
 - ・大会運営委員はSTAFFと書かれた名札をつけていますので、ご用の節はお申しつけください。
 - ・お問い合わせ先は大会プログラムのp.10に掲載されています。

【基調講演】

「組織開発において組織文化を捉える —組織開発と組織エスノグラフィーの関係—」

講師：金井 壽宏 氏（神戸大学大学院経営学研究科）

概要：

講演者にとっても母校のひとつ、MITは、K. レヴィン、D. マクレガー、R. ベッカー、W. ベニス、E. H. シャイン（以下EHSと略）がいたおかげで、組織開発の草創期から、ODを含む組織行動論（OB）の実践的展開における中心的な教育研究機関であった。科学と工学の産業への応用がMITの建学の理念なので、また、「役立つのがよい理論」「理論なきアクションなく、アクションなき理論もなしにしよう」と言ったK. レヴィンが足跡を残した研究教育の場なので、MITのOBのファカルティたちが、マクレガーのリーダーシップのもとODに親和性を抱いたのはもっともなことではあった。

そのMITでのわたし自身の修業期に、一方では、恩師シャインのプロセス・コンサルテーション（以下PCと略）的発想と言動にふれて、組織を研究するには、その組織に乗り込んでODなどを通じてゆさぶりをかけることが、実践的な研究では大事だということを学んだ。シャイン先生との日常のやりとり、またスローン・フェローズ（と呼ばれるエグゼクティブMBA）向けの彼独自のOBの科目で、TAとしてサポートをするなかで、EHS流のPCの実際にもふれた。また、当初の*Process Consultation*以後に、その改訂版、*I, II, Revisited, Clinical Approach, Helping*という書籍が出る度に、直接に著者（EHS）本人から、改訂の意味合いを聞いた。また、MITでのPhD修了後も、ケーブコードでPCに関する1週間のチュートリアルを直々にシャイン先生から教わり、サーティフィケートをいただいた。

他方で、わたしのMIT時代での主たる研究（とりわけ博士論文につながった研究）は、MITエンタープライズフォーラム（以下MIT/EFと略）とニューイングランド地域小企業協会（以下SBANEと略）エグゼクティブ・ダイアログ会（DG）の比較ケース分析で、組織エスノグラフィーの方法をとりつつ、サーベイ法を併用した。博士論文の指導教員は、組織エスノグラフィーで名高く、スティーブ・パーリー、ギデオン・クンダの高弟を育てたジョン・ヴァン・マーネン（以下JvMと略）であった。このいずれの会合も、自助互助グループなので、OD的にも興味深いものであったが、わたしの立場は、とりわけ、MIT/EF人類学的な観察者であったが、SBANE/DGでは、支援的なプロセスコメントを求められることもあった。ちなみに、すべてが数理的・定量的ともいえるMITの文化のなかで、クリニカル・アプローチを含む質的研究を重視したEHSが、JvMを組織社会学の担当に採用したのは、非常に興味深い。留学のタイミングもよかった。わたしがMITに入学する前の年に、伝説的な「組織研究におけるクリニカル・アプローチ」というEHSのセミナーが開かれた（後に書籍となった）。

調査方法論への志向性の違うふたりの師をもつことは、ふつうは修業者には朗報とは限らない。通常は、相手が支援を求めているときにこそ、その解決に対応するときに最も良質で役立つデータが集まるというクリニカルアプローチ（EHS）と、調査対象に介入することなく参与観察することで内部者の見解に肉薄するというエスノグラフィック・アプローチ（JvM）は相容れないと考えられてきた。しかし、EHSとJvMの両先生が、相互に異なるアプローチを尊重されたので、わたしは、絶妙なポ

ジションにあったと思っている。その結果、わたし自身は、組織エスノグラフィーを内部者に提示することで、サーベイ・フィードバック法のODよりも深い、介入が可能にもなること、逆に、相手を支援する形で調査協力者（実際にはクライアント）に接するほうが内部者見解についてより良質なエスノグラフィー的記述も可能になるのではないかという着想をもつようになり、これまで2つの学会（日本情報経営学会と経営行動科学学会）で、基調講演とパネル討議をさせてもらった。

今回は、さらにこの考えを深めて、ホールシステムアプローチの源流となったサーチ・コンファランス、さらにその嚆矢となった英国のバーフォード・コンファランス（クライアントはブリストル・シドリー・エアクラフトエンジン社のCEOアーノルド・ホール卿、ODコンサルタントは、タヴィストックのエリック・トリスト、記録とサブは、フレッド・エメリー）の現代的意味合いにもふれたい。あわせて、ケネス・オルセンが率いるDEC社をクライアントとする初期シャインの経営幹部レベルの会合への介入（積極的働きかけ）についてもふれ、結論的には、ODエキスパートが、職場レベルだけでなく、経営者・経営幹部レベルの会合でのODに従事する可能性を、この国においても探ってみたい。たとえば、会社が元気なく、政府が迷走（瞑想）・妄想するなか、産業組織、政治組織でもトップレベルへのOD的働きかけが求められているのではないか、という実践的論点にも言及したい（たとえば、フルに機能はしなかったが、鈴木寛氏が文科副大臣時代に文科省で導入した塾議は、OD的であったともいえる）。

参考文献 松尾睦・佐藤郁哉・金井壽宏（2011）「質的研究について考える」『経営行動科学』第24巻第3号、211-249頁。

講師プロフィール：

金井壽宏（かない としひろ）

1954年生まれ。78年京都大学教育学部卒業。80年神戸大学大学院経営学研究科博士前期課程を修了。89年MIT（マサチューセッツ工科大学）でPh.D.（マネジメント）、92年神戸大学で博士（経営学）を取得。現在、神戸大学社会科学系教育研究府長兼同大学院経営学研究科教授。組織行動論と経営管理論を担当、『リーダーシップ入門』（日経文庫）等、リーダーシップ、モチベーション、キャリア等の書籍多数

【発表セッション】

発表1 時間 13:00~14:15 会場 会議室9-A 座長：清宮 普美代
(株式会社ラーニングデザインセンター)

「チェンジ・マネジメントとしてのサーベイ・フィードバック実施のポイント」

発表者：川本 芳裕・波多江 嘉之[#] (株式会社ビジネスコンサルタント)

概要：組織サーベイを報告書として経営者や経営幹部に提示するだけでは、組織変革のトリガーにはなりにくいようです。つまり、現実には起きている問題について「向き合う」と「共有」することが不足していると考えます。そこで、以前から我々が活用している技法のひとつである、サーベイ・フィードバック方式をご紹介します。これは、簡単な方法ですが、ラインマネジャーがサーベイの結果を受容(受け止め)し、行動を起こす(職場展開する)トリガーになりやすいアプローチです。実施方法は簡単ですが、いくつかのポイントがありますので、経験談を元にお話します。

ビジョンや希望する姿から変革を進めるアプローチを好むコンサルタントからは、「本当に現状の受容が必要なのか」という意見もあります。このあたりは、立場、哲学や組織状況によると考えていますので、討議のテーマとしても面白いでしょう。ちなみに、このアプローチのベース理論は、ベックハートの「変換プロセス」です。「現状の姿⇒変換過程⇒希望する姿」の「現状の姿」に焦点をあてています。

発表2 時間 13:00~14:15 会場 901 座長：西川 耕平 (甲南大学)

「タレントマネジメントに関する米国の潮流と日本における現状と見通し」

発表者：高野 佳典・永井 隆雄[#] (株M-ITソリューションズ)

概要：近年になり、タレントマネジメントというキーワードが日本企業にも注目されるようになり、従来のHRM(人的資源管理)を代替する用語／概念として用いられていることもあります。しかし、米国でもタレントマネジメントの意味するところは確固たるものがあるわけではないようです。日本ではタレントマネジメントという言葉自体があいまいで、今一つ判然としない状況です。そこで、本報告では、米国の潮流を文献レビューで理論的な検討を行ない、さらに日本における実務の実際(多少の事例紹介を踏まえつつ)、そして、今後どうあるべきかの見通しを概観します。タレントマネジメントでは、人財(タレント)の採用、定着化、育成開発、処遇などがトータルに問題にされます。その基本的な考え方と方向性を概観しつつ、提言したいと考えます。

※発表者の[#]マークはODネットワーク・ジャパン非会員の方です。

【発表セッション】

発表3 時間 13:00~14:15 会場 902 座長：大島 岳（株式会社シー・シー・アイ）

「ポジティブ心理学を活用したリーダー行動変革とメンバーへの影響」

発表者：渡辺 誠（サクセスポイント株式会社）

概要：昨年7月に、米国フィラデルフィアで開催された IPPA（国際ポジティブ心理学会）でポスター発表した内容をさらに充実させて発表します。プロジェクトチームの活性化により主体性をもった社員をつくりたい、という顧客の要望によって実施されたリーダーシップ変革プログラムです。

ここではプロジェクト・マネージャーたちの行動変容を促し、チームのメンバーの行動を変えました。ホールシステムアプローチのようにメンバー全員を巻き込んでいないが、リーダーの行動変革がチーム行動にポジティブな変化を及ぼすことが、データで示してあります。

ミシガン大学のキム・キャメロン教授の「ポジティブ・リーダーシップ」理論を、日本流に応用して実際にやってみたものです。

実施した内容は「ポジティブ心理学」で検証された行動をワークショップに落したのですが、AIの考え方も取り入れています。AIと「ポジティブ心理学」はとても近い位置にあるためです。当日は実施内容の一部をワークショップ形式で紹介します。

発表4 時間 13:00~14:15 会場 904 座長：文川 実
(運営委員、キャリア・コンサルティング技能士会)

「プロセスデザインの基本の「き」は、“聴く”ことにあり」

発表者：野口 正明[#]・高木 穰（(株)スコラ・コンサルト）

概要：経営コンサルタントは、一般的にクライアントの問題を発見・診断し、解決の処方箋を提示する役割を担う存在です。それに対して私たちスコラ・コンサルトのプロセスデザイナー[®]は、クライアントに教えるのではなく、一緒に困って相談し合いながら、ありたい姿に向けたプロセスにともにかかわっていきます。

その際、最もベーシックな部分で必要とされるのが、「聴く」スキルです。コンサルタント自らが「聴く」モデルとなることにより、場の中に「聴き合う」スペースをつくっていきます。私たちはオフサイトミーティング[®]という場の中で、発言者の言葉だけでなく、言葉の裏側にあるもの、まだ言葉になっていない感覚にも注意を向けています。それに加え、意見の言い合いでなくメンバーが「聴き合う」場づくりの仕掛けも加えていきます。このことによって、お互いの感情や思考の自由かつ主体的なやりとりが促進されることとなります。

今回は、能動的に「聴く」というスキルを通して、場の中でメンバーの内発的動機を引き出し、相互に有機的なかわりあいができるレベルに発展させ、結果として事業や組織のありたい未来を描くプロセスが、どのように実践されているかをいくつかの事例をもとに発表します。

【ワークショップ】

ワークショップ1 時間 14:30~16:45 会場 会議室9-A

「組織開発の特徴と可能性」

企画者・担当者：中村 和彦（運営委員、南山大学）

概要：組織開発についてこれから学ぼうという方、組織開発とは何かを整理したいという方を対象としたワークショップです。組織開発の特徴や歴史、ベースとなる価値観についての小講義と、小グループや全体での対話を行います。

スケジュール（予定）：

- 14:30～ 導入、ワークショップのねらいの説明
- 14:40～ 「私の組織開発のイメージ」 個人記入と小グループでのわかちあい
- 15:10～ 小講義「組織開発の特徴と歴史」（全体でのやりとりをしながら）
- 16:15～ 「組織開発の視点から変革を試みる可能性」小グループでのわかちあい

ワークショップ2 時間 14:30~16:45 会場 会議室901

「国際カンファレンスにおけるネットワークスキル —第一印象とインパクトで良いコミュニティを構築しよう—」

企画者：外山 麻衣（運営委員、株式会社シー・シー・アイ）

話題提供者：西川 耕平（ODネットワーク・ジャパン代表理事／甲南大学）

ワークのファシリテーター：揚石 洋子（株式会社セブンシーズ 代表取締役）

Grant Cameron（株式会社セブンシーズ GM）

概要：私どもODネットワーク・ジャパンは、世界のODコミュニティメンバーとして、海外におけるカンファレンスへの参加や日本での国際カンファレンス開催に向けて準備を進めております。このワークショップでは、国際カンファレンスに関心はあるものの「語学（英語）に不安を持っている」という方も、海外のメンバーと積極的に交流できるように、ワークを通じて語学だけに頼らないグローバル・コミュニケーションのポイントを持ち帰っていただくことを目的にしています。

スケジュール（予定）：

- 14:30～ ODの国際カンファレンスの概要と日本での開催について（話題提供：西川 耕平）
- 14:45～ ネットワークスキル ポイントと実践（ファシリテーター：揚石 洋子）
 1. Warm-Up (1, 2, 3)
 2. Global Communication 6 Skills グループ・ディスカッションとレクチャー
 3. Magical 30 30分で初対面の外国人から信頼される魔法のコミュニケーション
アイコンタクト、姿勢、ジェスチャー、声の大きさ、距離感の重要性
 4. Dialog: Meeting for the first time
 5. 今日の学び (KLP)

【ワークショップ】

ワークショップ3 時間 14:30~16:45 会場 902

「先進企業内事例からみる組織開発の現実」

企画者・ファシリテーター：梅谷 佳弘（運営委員、エプソン販売株式会社）

江波戸 紀子（運営委員、株式会社リコー）

ゲストスピーカー：西出 恵美（日産自動車株式会社）

概要：企業内における組織開発実践者のストーリーテリングから、参加者の方々同士による小グループでの対話を通じて気づきと学びを持ち帰っていただくことをねらいにしています。

スケジュール（予定）：

14:30～ 導入、ワークショップのねらいと流れの説明、アイスブレイク

14:45～ ストーリーテリングとは？

15:00～ ゲストスピーカーによる企業内での組織開発実践のストーリーテリング

15:20～ 小グループづくりとグループ内での対話

16:20～ 全体での共有

ワークショップ4 時間 14:30~16:45 会場 会議室904

「ワールドワーク

—組織的課題の盲点を探り、敷居を越える—

企画：ODネットワーク・ジャパン チーム・ビルディング部会

ワールドワーク・ファシリテーター：武田 美亜（Shanti Daya）

概要：ODネットワーク・ジャパンのチーム・ビルディング部会では、チームの成長プロセスを紐解くために、「U理論」を取り上げた勉強会を行ってきました。これまでの勉強会で、第一部「盲点に突き当たる」から、あらゆる盲点について学び合いました。次の第二部「Uの領域に入る」を読み始める前に、ひとつの体験を通じて盲点を探るワークショップを実施することになりました。私達が見えている物は何なのか、私達が見えていない物は何なのか、私達が見ようとしていない物は何なのか…。ワークショップにご参加いただいた方々とともに、自身の盲点、集団の盲点、組織の盲点、社会の盲点に気づき、越えるべき最も重要な「敷居」を探ります。なお、本ワークショップは ODNJ チーム・ビルディング部会の活動報告も兼ねています。

スケジュール（予定）：

14:30～ チェックイン

14:45～ 「盲点」についてのディスカッション

15:00～ ワールドワーク

16:30～ ODNJ チーム・ビルディング部会の報告

【全体セッション】 時間 17:00~18:00 会場 会議室9-A

「組織開発の可能性を語り合う—1日をふりかえって—」

企画・ファシリテーター：寺田 由香里（運営委員、サンタ株式会社）
廣瀬 沙織（運営委員、株式会社ビジネスコンサルタント）

年次大会の1日を終えるにあたって、各セッションでの気づきや学びを小グループで共有し、組織開発の可能性を考える、対話セッションをワールド・カフェ形式で実施します。組織開発に携わる皆さんのネットワークづくりの場になることもねらいにしています。年次大会の1日の締めくくりとして是非ご参加ください。

2012年度 OD Network Japan 年次大会 賛助団体ご芳名

株式会社スコラ・コンサルト
株式会社ビジネスコンサルタント
株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
(50音順)

2012年度 ODネットワーク・ジャパン年次大会 運営委員

梅谷佳弘、江波戸紀子、外山麻衣、寺田由香里、中村和彦、廣瀬沙織、文川実 (50音順)

大会運営委員会事務局

2012年度 OD Network Japan 年次大会 運営委員会事務局

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 南山大学人文学部心理人間学科 中村和彦研究室

Eメールアドレス（運営委員会事務局）：ODNJ2012@odnj.org

OD Network Japan 事務局

〒107-0062 東京都港区南青山 2-29-9-601（株式会社シー・シー・アイ内）

Eメールアドレス：info@odnj.org

TEL：03-3497-5033 FAX：03-3497-5037

2012年度 OD Network Japan 年次大会 大会プログラム

2012年6月3日発行

発行者：2012年度 OD Network Japan 年次大会運営委員会事務局

印刷：株式会社尾頭橋印刷所（名古屋市中川区南脇町3-20）



FUJI XEROX 

株式会社 富士ゼロックス総合教育研究所
(URL : <http://www.fxii.co.jp>)

本社

〒106-0032
東京都港区六本木 3-1-1 六本木ティーキューブ 14 階
TEL : 03-5574-1511 (代表)

関西支店

〒650-0021
兵庫県神戸市中央区三宮町1-9-1 三宮センタープラザ東館6階
TEL : 078-326-2780 (代表)

中部支店

〒460-8609
愛知県名古屋市中区錦 1-10-20 アーバンネット伏見ビル 8 階
TEL : 052-229-9592 (代表)

スペースアルファ神戸

〒651-1301
兵庫県神戸市北区藤原台北町4-27
TEL : 078-981-9000 (代表)

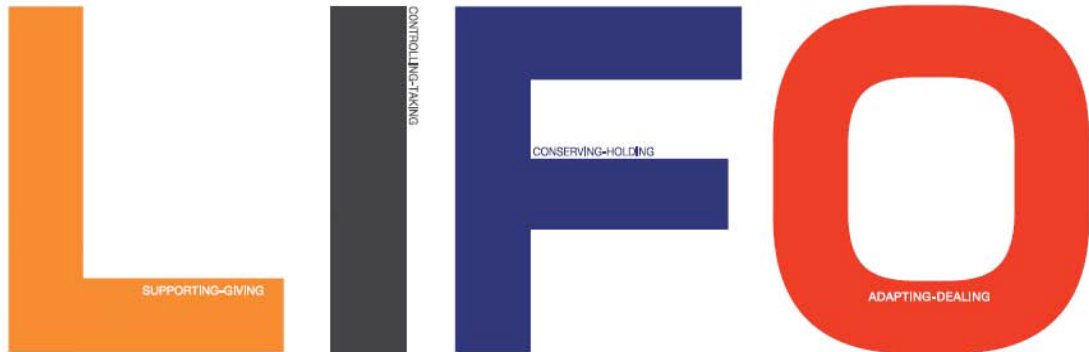
スペースアルファ三宮

〒650-0021
兵庫県神戸市中央区三宮町1-9-1 三宮センタープラザ東館6階
TEL : 078-326-2540 (代表)



コミュニケーション変革を通して
組織総力の結集を実現する

BC *Consultants* 株式会社ビジネスコンサルタント



世界56カ国！体験者1000万人以上が
チームのコミュニケーション向上を実感！！

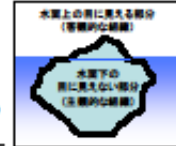
世界中のODコンサルタントが活用するツール
『LIFO (ライフ)』を使ってみませんか？

詳しくは・・・ **LIFOツール** で検索を！！

LIFOオリジナルサイト：<http://lifo.jp/>

生きている組織を複雑なままに扱い、目に見えないものを「見る・聴く・さわる」

〈スコラ式風土改革〉は、
「内なる組織」のダイナミックな動きをデザインする日本生まれの手法です。



スコラ・コンサルトは80年代の半ばから、組織のパフォーマンスに決定的な影響を及ぼしている風土・体質に着目し、企業変革の現場での実践を通じて方法論を発展させてきました。めざすのは、社員の働きがいと業績がトレードオフにならない、新しい価値観がスタンダードの企業社会です。

スコラ式は、建前やあるべき論ではなく、みんなが感じていても口にできない本音や問題をありのままに話し合える関係性、経営や仲間に対する信頼と明日への期待がもてる環境をつくり、組織の前向きな変化を促します。

- 組織のもつ従来の「常識／仕事の価値観や習慣・ルール」(＝パラダイム)を変える。
- 社員の間で主体的に変化・挑戦が起こるような環境条件を整えていく。
- 社員同士が助け合い、厳しく向き合って成長する関係性をつくる。

このような環境をつくるための対話や議論、働きかけによる相互作用を通じて、主体的に変化し続けるダイナミックな組織づくりを支援しています。

特徴

- 日本的経営の強みを生かし、組織に働きかける風土改革を展開
- 企業変革の支援を通じて独自の的方法論・ノウハウを構築
- 自らも環境の一部となって動くプロセスデザイナーがサポート
- 対話型の進め方(対話のツールも独自に開発)
- 社員の働きがいと業績の両立をめざす
- 安心・創造・組織力のために行なう対話
オフサイトミーティング／ジブンガタリ、思いガタリ、ミライガタリ／
カフェトーク、ピアトーク／ビジネスダイアログなど

株式会社スコラ・コンサルト
SCHOLAR CONSULT CO.

URL: <http://www.scholar.co.jp>



OD Network Japan

組織開発による実践と学習のコミュニティ

【Web ページ】 <http://www.odnj.org/>

【Facebook】 <http://www.facebook.com/ODNetworkJapan>

主な活動： 年次大会の開催（年1回、毎年5月頃）

研究会の開催（年2～3回を予定）

分科会の開催（チーム・ビルディング部会、ODNJ West 組織開発研究会）

ODに関する講座の開催（組織開発基礎講座を実施、他の講座を計画中）

Web での情報提供

研究誌「OD ジャーナル」を年度内に発行予定

2014年夏には International OD Association との合同の世界大会開催を準備中